

はじめに

「世の中にある数多の憂い^{あまたのうれ}を、決して『他人事^{ひとごと}』としない姿勢に敬意を表します」と書かれているのは、謹呈した『農ある世界と地方の眼力5』に対する謝辞の一節。本書は、その第6弾です。第5弾までと同様、一般社団法人農協協会がインターネットで配信しているJ A c o m & 農業協同組合新聞の、コラム「地方の眼力」に掲載するために2022年度に執筆した48編です。うち掲載されたものが45編、諸般の事情で不掲載（いわゆるボツ）となったものが3編です。

読者各位には、ご一読いただき、諸般の事情に思いをめぐらせていただければ幸いです。

本書の編集に際しては、掲載順に並べるスタイルを取り、不掲載3編も巻末に時系列で載せました。

内容は原文を尊重し、必要最小限の修正・調整にとどめました。また、個人の所属や肩書き、組織名なども初出時点のままとしています。ご了解ください

本書が取り上げた主なテーマをキーワードで示すと、軍拡競争、食料有事、過疎対策、貧困の拡大、戦争被爆国、生産費高騰、東京一極集中、安倍国葬、民意、J A 女性組織、被災地、健全なる政治、インボイス、教育現場の疲弊、廃校活用、少子化対策、女性ゼロ議会、学校給食、怒るオランダの農家、文化庁の移転、自爆契約、などです。

第5弾でも書き記したことです。多方面にわたるテーマを取り上げたように感じられるかもしれませんが、「地方」と「農ある世界」に少なからぬ関係性を持つ出来事について言及しており、根っこでは繋がっている問題です。だからこそ、根深い問題でもありません。

時の政権は、異口同音^{いくどうおん}の美辞麗句^{びじれいぐ}を並べて、「地方」や「農ある世界」の重要性に言及します。しかし、魂のこもった言葉ではないことは、事実が証明しています。

「地方の眼力」というコラムも、それをまとめたこの本も、一貫して、問題の所在を時系列的に示し、少しでもその解決の糸口を提示することを目指しています。

「地方」や「農ある世界」をめぐる情況が好転することに、少しでも貢献できることを願っています。

そのためにも、これまで以上の叱咤^{しつた}激励と、発表の場の提供をお願いする次第です。

辛口漫筆家と関連業界との板挟みで苦境に立つことも少なくないはずですが、我慢強く発表の場を提供していただいている一般社団法人農協協会には、心より御礼申し上げます。

また、厳しい出版事情の中、快く出版の機会をご提供いただいている株式会社大学教育出版にも、厚く御礼申し上げます。

皆様の支えにより、第7弾を目指しますので、引き続きのご支援をお願いします。

2023年8月

小松泰信

農ある世界と地方の眼力6
——令和漫筆集——

目次

はじめに	i
戦争が犯罪	3
ヤジ排除違法判決に道控訴／銃口の先にいるのは私!?／軍拡競争で、誰が喜び、誰が悲しむのか／「共感疲労」はいかにして克服すべきか	3
農業軽視国家に迫る食料有事	7
米粉への期待高まる／急がれる「分配政策」の実行／必要な骨太の食料安全保障／弱体化する国内の農業生産基盤	7
過疎に拍「車」を走らすJR	11
過疎対策に近道はなし／「地方回帰」の流れに注目／後世に禍根を残しかねない鉄路廃線／鉄道の維持は国策／ぼっぼやのブライド	11
「なんちゃって国会」が導く先	15
予算は政府・与党の財布ではない／減税に踏み込まないのはなぜ?／セーフティネットとして機能していない社会保障制度／「なんちゃって補正」が教えていること	15
カジノで地域は振興しない	19
問題山積IR／内実が問われる「観光立国」／足元が揺らぐ長崎県と大阪府・市／地域振興はギャンブルではない	19

「貧困の拡大」と「聞く力」……………(2022.5.18)……………

広がる隠れ貧困／暮らしの安心を保障することは政治の責任／長生きしてはダメですか／大企業栄えて貧困拡大す

パンダの目を棒でつくな……………(2022.5.25)……………

リベラル覇権主義の大罪／唯一の戦争被爆国としての責務を忘れるな／世界を分断しかねない米国の方策／一に外交、二に外交、三、四がなくて五に外交

吉川元農水相に有罪判決……………(2022.6.1)……………

最低の元農水相／政治を担う資格なし／政権における「倫理観の欠如」／それで良いのかサントリー／聞きたい！
J Aグループの見解を

黒田発言が露呈したもの……………(2022.6.8)……………

食料高騰で貧困加速というのに／案の定、炎上。すぐにはじまる、消火活動。／民の竈／賃金を上げる！／怒らなげや、やられるぞ！

侮辱罪と民主主義……………(2022.6.15)……………

「黒田はク口だー」って言っているのかな…／ヤジったら侮辱罪ですか？／閣僚を侮辱した人は逮捕される可能性がある／侮辱罪に問われるべきは誰だ

内憂外患への一票入魂……………	(2022.6.22)	43
世界の食料事情は崖っぷち／生産費高騰に苦しむ農業者の苦しい投票行動／受け皿になれないのか純粋野党／有権者の「権利と責任」		
地方の心臓が止まるのを待っているのか……………	(2022.6.29)	47
「東京一極集中の是正」を争点に／「地方活性化」「地域政策」への関心は高くないが／必要な地方に特化した政策／地方自治は民主主義の土台だが		
政治の世界と通信障害……………	(2022.7.6)	51
スマート農業に影響／山際は瀬戸際／お久しぶりの麻生発言／海自呉総監の注目すべき「個人的感想」		
「まかれた種」と「聞く力」……………	(2022.7.13)	55
二人でまいた種。刈るのはあなたです／農ある世界にもまき散らかされた数々の悪種／岸田首相に強いリーダーシップを求めているが／地方の「声なき声」を拾い集めるのは誰だ		
国葬とはこの国の野辺送りか……………	(2022.7.20)	59
国葬に賛意を示す全国二紙／国葬に疑問を呈する地方紙／山上容疑者がさらしたもの		
K氏と協同組合のこれからを考える……………	(2022.7.27)	63
「協同組合は、緩やかだが発展する」って、本当？／「新たな探究の時代」に入るべき協同組合／「政治的中立の原則」を疑え／未来社会と協同組合		

世論調査が伝える民意	2022.8.3	66
昨夜、アベちゃんと飲んできた／国民の過半数が反対する国葬／外交努力と憲法順守		
国境は誰が守るのか	2022.8.10	70
戦争はひきような殺人／ペロシ様ご一行の迷惑千万な置き土産／沖縄二紙は訴える／説得力ある島人の言葉		
差別容認・助長内閣とJ A女性組織	2022.8.24	74
強まる「統一教会内閣」批判／別称かつ蔑称「差別容認・助長内閣」／問われる岸田首相の見識や任命責任／これで良いのか！J A女性組織		
後遺症に悩み苦しむ被災地	2022.8.31	78
何が「アンダーコントロール」だ／岩手県大槌町に学ぶ大学生／失われた地力と地域のコミュニティ／震災を風化させる気か「食料・農業・農村白書」		
子どもの貧困は許さない	2022.9.7	82
宅配ドライバーを通して描くコロナ禍／「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」の概要／4つのメッセージと3つの支援／「子どもの貧困問題」は沖縄知事選でもひとつの争点		
生産者を見殺しにするな	2022.9.14	86
10円/kgの値上げじゃ生活できない酪農家／経営継承に赤信号／不可欠な国の支援／価格転嫁の必要性が強調されてはいるが／糸島市の英断		

遠吠えの勧め……………	(2022・10・5)	90
家計は火の車／「口だけ危機感」と原発問題／避けられない旧統一教会問題／「農ある世界」に光はささず		
健全なる政治は健全なる精神から……………	(2022・10・12)	94
ヤマギワ・セトギワ・〇〇マガワ／経済再生担当大臣は重責のはず／ムラカミはムラカミでも村神様じゃなかっ		
た／緊急を要する苦境に立つ生産者、生活者支援／身も心も、フトコロも寒い冬になりそうです／政治家に健全な精神を求める		
地方の疲弊・衰退と地方院……………	(2022・10・19)	98
新幹線開業はまちづくりの出発点／どこがめでたい鉄道開業150年／JR只見線再開の意義と課題／検討にあ		
たいする「地方院」構想		
インボイスの前にこのボイスを聴け……………	(2022・10・26)	102
インボイス制度が免税事業者に迫るもの／政府は苦しむ人の声を聴け／農業に及ぼす看過できない悪影響／ST		
OP！インボイス		
疲れきった教育現場が生み出すもの……………	(2022・11・2)	106
増える児童生徒の問題行動・不登校／教員の働き方改革と学びを保障する多様な方法／冷静な分析に基づいた適切な対策／問題行動・不登校が暗示するこの国のあした		

居場所と承認……………	(2022・11・9)	111
「またもやすごいドラマが始まった」のは英国のお話し／「TVで会えない芸人」を支える居場所と承認／農ある世界に居場所を創る／自分を守る靴磨き		
人口80億人時代とこの国のあり方……………	(2022・11・16)	115
世界人口80億人突破がもたらすもの／生産現場は、今を乗り越えることに苦勞している／人口減を恐れず成熟社会を目指す／「成熟社会」のヒントは地域の再生にあり		
廃校活用プロジェクトにXはある……………	(2022・11・30)	119
ホテルで蘇る廃校／廃校活用で「地域社会性のある人と組織」をめざす／「地域の宝」を蒸留所として「新たな地域の宝」へ／廃校を新たな地域づくりの拠点に		
個性を磨いて性差を超える……………	(2022・12・7)	122
敏感な英国王室と鈍感な岸田政権／コスプレ発言の罪深さ／問われる政党の姿勢／「女性の経済的自立」という甘言には要注意／「農業女子」という言葉が死語となる未来		
ニセ情報にご用心……………	(2022・12・14)	126
NHK会長の選出方法に異議あり／不偏不党の姿勢が貫けますか／世論工作を研究する防衛省／政治を覆う怪しげな論理／狂気には正気で立ち向かう		

急募！意欲ある町村議員…………… (2022・12・21) ……

「奇跡のまち」を支える町会議員／成立した改正地方自治法の要点と課題／地域社会の多様性を反映した議員構成をめざせ／この議員報酬と政務活動費で、誰に何を求めますか

「国防」とは壊国から守ること…………… (2022・12・28) ……

防衛費拡大を疑え／真の国防を問う／壊国の気配／大政翼賛に与せぬ覚悟

統一地方選の意味…………… (2023・1・11) ……

期待されていない「デジタル田園都市国家構想」／「地方創生や東京一極集中是正」は争点にならないのか／「住民参加と公開」が議会改革の要諦／問われるあなたの眼力

揺らぐ地域社会のセーフティネット…………… (2023・1・18) ……

民生委員制度に暗雲／時代にあった「ゆいまーる」の必要性／速やかに対策を講じる／民生委員協力員制度／子ども民生委員の誕生／必要な丈夫で多様なセーフティネット

異次元改め低次元の少子化対策…………… (2023・1・25) ……

これで良いのか備前市役所／それで良いのか農水役人／手順が異次元、内容は低次元／だから子どもは産めません

挑戦する地方と変わるべきもの…………… (2023・2・1) ……

夏が来なくても心に残る尾瀬高校／「一筆啓上賞」が示す地方の挑戦／OECDが注目する山形県の農村地域／本当に変わるべきは我々

「女性ゼロ議会」が鳴らす警鐘 (2023.2.8) 154

必要な地方議会の全面オンライン化／解消すべき「女性ゼロ議会」／全国平均を上回る九州／自分が落選しても
議会に女性加わる価値はある／女性不在の損失は大きい／JAグループに聞こえるかこの警鐘が

「より良き食」を子どもらに (2023.2.22) 158

千葉県いすみ市に注がれる熱視線／有機農業推進はトップダウン／決め手は学校給食での使用／票目当てで給食
を食いものにするな／子どもたちに「より良き食」を

地方や農業の未来は自ら切り拓く (2023.3.1) 162

本気ですか／まさか地方にお金を回さない!?／「党大会は『反省会ではない』」そうです／改憲論議よりも優先す
べきこと／追い込まれる地方

官邸にブーメラン返る (2023.3.8) 166

俺の顔をつぶせば、ただじゃ済まないぞ／内部文書はやはり本物／看過できない政治介入／サナエの悪知恵には
だまされない

異次元の少子化対策は「戦争しない国づくり」 (2023.3.15) 170

男女共同参画社会づくりは「永遠に道半ば」／国会の「壁」を打ち破る／母親ペナルティーの解消／希望なき社
会で子は産めぬ

農家は怒るべし (2023.3.22) 173

この人のほらわたは？／オランダの農家は怒っている／この国に酪農は不要なのか／ジャーナリズムこそ怒れ

農林水産省は文化庁に続け…………… (2023.3.29) ……

文化庁は最初で最後なのか／期待を寄せる全国紙／冷めたまなざしの地方紙／次は農林水産省の移転をめさせ

【不掲載コラム】

安倍国葬に反対する…………… (2022.09.21) ……

二階俊博氏の勝手な言い草／何が人生観だ。もったい付けるな／「労働者の代表」だったんですか。何が苦渋の決断だ／中家徹全国農業協同組合中央会会長の国葬出席に反対する／国賊かつ売国ですか

J Aの明日を憂いてコラム書く…………… (2022.09.28) ……

相応しいセレモニー風景／自給率の低さを憂い 農の未来考え ペンを執る／山下惣一氏にもあつたんだってさ／「農業協同組合新聞」はJ Aグループの機関紙ではない

自爆契約が道連れにするもの…………… (2023.02.15) ……

「不必要な共済契約」は自爆契約／自爆契約、立て替え、代筆／自爆して解放されたい！／安心できないQ & A／自爆契約がもたらす「かんぼ」の二の舞

農ある世界と地方の眼力6

—— 令和漫筆集 ——

戦争が犯罪

(2022・4・6)

いかがでしたか？前回（3月30日付）の当コラムで紹介した、HBCテレビ『ヤジと民主主義〜小さな自由が排除された先』は。

ヤジ排除違法判決に道控訴

ご覧になった方々の多くは、安倍晋三首相（当時）の街頭演説に対し、ヤジを飛ばした男女2人を排除した北海道警の対応に、違法性を認めた札幌地裁判決を真つ当なものと思われたはず。

ところが、北海道は1日、判決を不服として控訴した。

排除した警察官による職務執行の是非は、札幌高裁で改めて審理されることとなる。

東京新聞（4月2日付）によれば、原告の一人大杉雅栄氏は、「鈴木直道知事が表現の自由の価値を信じているのであれば、控訴を取り下げろべきだ」と抗議声明を発表。

道警監察官室は「控訴審で当方の考えを主張していく」とのコメントを出した。

地裁判決後、もう一人の原告桃井希生さんは、「すごいうれしいです。おかしいことに、『おかしい』と声を上げる権利を裁判所が認めたからです。政府の悪政に抗議の声を上げようと思っっているすべての人を守る判決です」と喜びを語った。また「裁判所では不安になることもありましたが、そんな時、排除された現場で心配そうに見ていた年配の女性が、裁判の傍聴に訪れ、励ましてくれました。（中略）そんな応援があり、2年間たたかうことができました」と、不

安だった胸の内も明かしている。「しんぶん赤旗日曜版」4月3日号)

北海道が控訴を取り下げなければ、原告らの不安な日々は続くことになる。

原告2人が背負うしんどさは、大きくて重い。それに比べて、道や道警が背負うしんどさのなんと軽いことか。弁護士費用だって、税金を使うんじゃないの。違う？

道や道警は権力を持った組織である。その威信にかけて負けない闘争を仕掛けてくるだろう。例えて言えば、道や道警は現在のロシア。鈴木知事や扇沢昭宏おのきりあきひろ道警本部長はプーチン。支離滅裂でみっともない言動しかできなかった道警察官はロシア軍兵士。そして原告2人は、ウクライナの罪なき民。

道と道警はすぐに控訴を取り下げ詫げるべし。さもなくば、真つ当な司法の判断で、恥の上塗り。

銃口の先にいるのは私!?

東京新聞の同一紙面には、琉球新報から提供された「基地施設内から小銃を民間地方向に向ける武装米兵」の写真が掲載されている。銃口が、われわれ読者に向けられているようで、薄気味悪さを禁じ得ない。

「3月31日夕、記者が訓練の行われた倉庫の正面で取材中、倉庫から出てきた兵士一人が銃を構えた。記者と目が合うと、銃口を向けたままで数秒間、停止した」と、琉球新報は報じたとのこと。

その琉球新報(4月3日付)は社説で、この問題をせじょう俎上じょうにあげている。

「基地の外に在る報道カメラマンに銃口を向けることは、憲法で保障されている報道の自由に対する挑戦だ。米軍は意図的に向けた可能性を否定したが、民間地に銃口を向け、民間人に恐怖を抱かせたこと自体大問題である。弾薬の有無は民間人には分からない。仮に意図がなかったとしても威嚇と受け止められたことを重視すべきだ。銃口を向けた行為に抗議する」と怒り心頭。

軍拡競争で、誰が喜び、誰が悲しむのか

ロシア軍の蛮行が朝な夕な報道され、「戦争犯罪」という言葉があふれている。しかし、軍隊である以上、やるかやられるかのところでは、蛮行を尽くすはず。日本軍しかり。米軍の広島、長崎への原爆投下は20世紀最大の蛮行、紛れもなき「戦争犯罪」。

平和を求めるならば、「戦争そのものが犯罪」という基点に立たねばならない。

しかし現実には、「力には力」「兵器には兵器」という、「血で血を洗う」悲劇のスパイラルに陥っている。

岸信夫防衛相は4日、共同通信社の単独インタビューにおいて、2023年度の防衛費を巡り「防衛力の抜本的強化のため必要な予算を確保したい」と述べ、22年度予算からの大幅増に意欲を示した。また「敵基地攻撃能力」保有を視野に検討を進める意向を示唆し、ロシアのウクライナ侵攻に国際社会が結束して対処し、台湾海峡有事が起きないよう中国の行動を抑止することが重要だとも指摘している。

時事ドットコム（4月6日0時35分配信）は、米国と英国、オーストラリア3カ国の首脳が5日、安全保障枠組み「AUKUS（オーカス）」の新たな取り組みとして、極超音速兵器を共同開発すると表明したことを伝えている。

中国やロシアが先行する同兵器の開発競争で巻き返しを図り、インド太平洋地域での抑止力向上を目指している。

米英豪の首脳は、「これらの取り組みがサイバー能力や人工知能（AI）、量子技術、潜水能力に関する協力を深化させる」と、声明で強調している。

すでにこの3カ国は、オーカスの枠組みを通じ、豪州の原子力潜水艦建造で協力を進めている。これに対して中国が、「深刻な懸念」を表明しており、極超音速兵器の共同開発についても中国敵視策だとして反発を強める可能性を示唆している。

ここで問いたい。止めどない軍拡競争で、誰が喜び、誰が悲しむのか、と。

「共感疲労」はいかにして克服すべきか

正直言うが、ウクライナ情勢を見ながらの食事は本当に苦痛。だから、夕食時は撮りためたドラマなどを観ることが多い。

悲劇的な報道を見ているうちに、気の毒な人々に共感して落ち込み、直接には何もできない自分を責め、体調を崩す人の心の状態を「共感疲労」と呼ぶことを、永田健氏ながたけし（西日本新聞・特別論説委員）の「時代ななめ読み」（西日本新聞、4月3日付）で知った。

氏は、防衛力増強、核共有、憲法9条改正、愛国心教育などを主張する人々が持論の発信を強め、「高揚感」を生み出していることを紹介し、「想定しなかった事態が起きた以上、日本の安全保障に関わる意識や体制もバージョンアップ（更新）が必要だと私も思う」と一定の理解を示しつつも、その高揚ぶりには違和感を覚えている。

「戦争のリアルとは、燃える街、逃げ惑う住民、泣く子どもなのだ。戦争被害者への共感で落ち込む人たちは、それを直感的に知っている。まずそこに心を寄せなければ、どんなに安全保障を語っても上滑りする。これから何ができるのか。何をすればいいのか。沈んでいる人たちと共に考えたい」とのむすびに、疲労なき共感を覚える。

「地方の眼力」なめんなよ

農業軽視国家に迫る食料有事

(2022・4・13)

「10キロ2千円台で買えるものもあり、農家の労働が報われる価格とは思えないほど、安く手に入る」と生産者に気づかいつつ、「安定して供給でき、安心できる国産の米を、もっと主食に取り込めないものだろうか」として、「小麦粉のかわりに即米粉とはいかないまでも、学校給食のごはんメニューをさらに増やす、米の加工品をもっとアピールするなど工夫をしていけば、小麦不足にあたふたすることも減るのではないかと、提言するのは塩崎三枝子氏（東京新聞4月12日付、読者の声」発言）。

米粉への期待高まる

「小麦粉値上げで米粉にチャンス」と題して米粉を取り上げたのは、NHK「おはよう日本」（4月11日7時台）。試行錯誤を重ね、小麦粉の15%を米粉に代えてフランスパンを作るのは埼玉伊奈町のパン屋さん。

これまでは米粉を売り込む方だったが、最近では「得意先や一般消費者から『米粉ありますか』という、問い合わせが増えてきた」と語るのは、栃木県小山市の米粉製造会社の社長。米粉を用いた麺や餃子の皮などの試作品を作り、新たな取引先の開拓にも挑戦している。同社の担当者によれば、小麦粉を米粉に1、2割置き換えることで、「非常にパリッと感が出た」とか「食感が良くなった」との感想が寄せられているとのこと。

ただし、米粉普及の前に立ちはだかるのはコストの壁である。

1キロ当たり原料価格は米粉約50円に対して、小麦粉約60円と、米粉の方が安い。これは、米粉用米の生産者に交付

金が支払われているためである。しかし、手間と時間、それに製粉機の効率稼働が難しいことなどから製粉コストが小麦粉約50円に対して、米粉が約70円から約340円となり、製品価格に大きな差が生じることになる。

今後、小麦の価格が上昇することで小麦粉の価格が上昇し、他方で米粉需要の増大によって製粉コストが低下し、米粉の価格が低下するならば、両者の価格差は縮小する。

野口智弘氏（東京農大教授）は、「米粉ならではの良さが、消費者に伝われば広がる可能性は十分ある」とコメントしている。

急がれる「分配政策」の実行

「ロシアによるウクライナ侵攻で、原油や小麦の国際相場は高値水準が続いている。（中略）いずれも輸入依存の構造は変えられず、地政学リスクに振り回される日本の弱点が浮き彫りになっている」とするのは、西日本新聞（4月12日付）。

小麦に関して、「日本は約9割を輸入に頼る。パンや麺に加え、しょうゆなど調味料の材料にもなる。ロシアとウクライナ両国で世界の輸出货量の約3割を占める。日本は両国から食用小麦を輸入していないが、ウクライナ危機で他産地の小麦価格が高騰。政府が製粉会社などに売り渡す輸入小麦価格の引き上げにもつながった」ことを伝えている。

熊野英生氏（第一生命経済研究所首席エコノミスト）は、「今後、収穫期の秋にかけて供給が滞ってくると、価格はさらに上昇するだろう」と予想し、小麦の使用される範囲が広いことから、「家計への影響は大きい」とする。さらに、「小麦と大豆やトウモロコシの国際市況は連動しており、今後はより一層幅広い食品の価格が上がる可能性が高い」と展望する。

加えて、岸田文雄首相が物価高騰に対応する緊急経済対策を講じる方針を示したことに関連し、「根本的な対策は賃